

SARS-CoV-2ワクチン接種後に 亜急性甲状腺炎を発症した3症例

島 正太郎[†] 田地佳那 近藤 譲* 八代 享

IRYO Vol. 76 No. 6 (453-457) 2022

要旨

患者は20代-50代の男性2名、女性1名でいずれもSARS-CoV-2ワクチン（Moderna社製、Pfizer/BioNTech社製）接種後の発熱、頸部痛を主訴に国立病院機構霞ヶ浦医療センター（当院）を受診した。有痛性甲状腺腫と炎症反応高値、甲状腺ホルモン上昇を認め、超音波で甲状腺の有痛部位に一致する低エコー域を認めた。亜急性甲状腺炎の診断で解熱鎮痛薬やβブロッカー、ステロイドによる治療を開始したところ症状は速やかに改善し、甲状腺機能も正常化した。これまでワクチン接種後の亜急性甲状腺炎の報告例があるが、SARS-CoV-2ワクチン接種後の報告は少なく、SARS-CoV-2ワクチンと亜急性甲状腺炎との因果関係は証明されていない。しかし、接種後発熱に加え頸部痛を認める場合、亜急性甲状腺炎の可能性を念頭に入れて診療にあたる必要があると考える。

キーワード 有痛性甲状腺腫、亜急性甲状腺炎、SARS-CoV-2ワクチン

はじめに

2019年以降新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染症（COVID-19）が全世界で大流行となり、複数の効果的なワクチンが迅速に開発、承認された。これまでいくつかのワクチンにおいて接種後亜急性甲状腺炎の報告があり、SARS-CoV-2ワクチン接種後の報告も数少ないが散見される。今回われわれはSARS-CoV-2ワクチン接種後に亜急性甲状腺炎を発症した3例を経験したので、若干の文献的考察とともにここに報告する。

症例 1

57歳男性

【主訴】発熱、右頸部痛

【既往歴】なし

【現病歴】SARS-CoV-2ワクチン（COVID-19 Vaccine Moderna[®] Moderna社製）1回目接種で副反応の発症はなかった。2回目接種後9日より37度台の発熱、頭痛、倦怠感が出現した。接種後17日近医を受診しアセトアミノフェン内服後一旦症状は消失した。しかし、接種後40日に38度の発熱に加え右頸部痛が出現し、近医で炎症反応高値を認めたため、接種後56日国立病院機構霞ヶ浦医療センター外科（当科）を受診した。

【受診時現症】体温37.6℃、脈拍数60/分・整。右頸部に拇指頭大の圧痛をともなう弾性硬腫瘤を触知した。

【血液生化学検査（表1）】白血球数（WBC）5,500

国立病院機構霞ヶ浦医療センター 外科 * 同 研究検査科 † 医師

著者連絡先：島 正太郎 国立病院機構霞ヶ浦医療センター 外科 〒300-8585 茨城県土浦市下高津2-7-14

e-mail : shimaxrugby@hotmail.co.jp

(2022年5月12日受付, 2022年8月5日受理)

3 Cases of Subacute Thyroiditis after Vaccination against SARS-CoV-2

Shotaro Shima, Kana Tachi, Yuzuru Kondo* and Toru Yashiro, Department of Surgery and * Department of Laboratory, NHO Kasumigaura Medical Center

(Received May 12, 2022, Accepted Aug. 5, 2022)

Key Words : painful goiter, subacute thyroiditis, vaccination against SARS-CoV-2